

李 嘉欣
LI Jiaxin



絆・流れ

パネル、ジェッツ、水彩、アクリル、布、金属、
ギヤボックス、紙



羈絆・介入

パネル、ジェッツ、鉛筆、プロジェクター

フィールド相互介入における影響と変化

様々な位置の間に存在する客観的関係の一つの網または構成をフィールドという。※フィールドの構築は、意図的な行為によって実現されるのではなく、相互介入であり、このインタラクション相互作用の結果であるといえる。その社会的関係は、ある種の特定の影響力が働くことで構造ができあがり、この影響力はその場に存在するすべての人に浸透するように入り込んでゆく。それは全てのことが周辺にある物事と相互に影響し合い、関連しているということである。

個人も集団も自分のフィールドを持っている。人と人とのつながりは個人と個人のフィールドの相互介入であり、このインタラクションで様々な影響と変化が生まれているのではないだろうか。私はこのような影響と変化を多様な芸術形式での実験的な表現を試みながら探究している。これらの目に見えない抽象的なものを実体のある行為や造形に置換し、身体感覚にフィールドが影響と変化を与える状況を生み出して、相互介入していく様子を認識しやすくなるような作品を制作した。

「羈絆・介入」は、人間の肉体と精神が繋がりあった様のイメージを基に制作した作品。人との繋がりを具象化して結びつけることで、人々のつながりにおいて個体間の相互作用を示すとともに、周囲にも影響を及ぼし、さらに、時間と空間を超えて異なる次元の行動を結びつけていく様子をビデオで記録し表現した。

2019年から研究と制作を継続している作品で、10人分の服を輪になるように腕の部分を縫い合わせて、さらにその服を人々が着るというパフォーマンスをする作品である。

シリーズ作品として平面絵画も制作しているが、特に最新作では表現内容も新型コロナウイルスの影響から変化を余儀なくされた経験を含み、個体と集団のフィールドが相互作用した結果をモノクロで陽炎のように揺らいだ状態で表現した。

「絆・流れ」は、ずっと回り続ける形のインスタレーション作品。角度によって色の彩度が変化する布2枚を使用して、その布を二人の人に見立て、回転運動をさせることで交わっていく様子を表現した。回転中の二人はずっと変化し続けていくこと、互いに影響し合うことが続くこと、それが永遠に続くことが私の望みなのかもしれない。私たち人間は移ろいゆく存在であるため「一期一会」という言葉のように、流れと変化の中で、絶えず発生し、消え去って行く存在なのだ。

ピエール・ブルデュー【著】 / 李猛, 李康【訳】

(1998)『構造と実践—ブルデュー自身によるブルデュー』中央編訳出版社, p.131-156